

日本版抗コリン薬リスクスケールとフレイル関連
の転帰との関連性の検討（DPC データを用いた研究）

1. 研究の対象

2020 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日に当センターに入院された 75 歳以上の患者様

2. 研究目的・方法

高齢になると複数の病気を抱えやすくなり、それに伴って多くの薬を服用する「ポリファーマシー」が増えています。その中でも「抗コリン作用」という性質を持つ薬は、認知機能の低下、せん妄（急な意識の混乱）、転倒、排尿障害、便秘など、高齢者の生活に大きく影響する副作用を起こすことが知られています。

これまでの研究で、抗コリン作用をもつ薬を多く使用している高齢者は、フレイル（虚弱）やサルコペニア（筋力低下）、さらには認知症の発症リスクが高まることが分かってきました。しかし、これらは主に地域在住の方を対象とした研究であり、入院治療を受ける高齢患者様を対象とした大規模な研究は十分に行われていません。

当センターのような高齢者専門急性期病院では、患者様が入院中にどのような薬を使っているか、入院前後で生活機能（ADL）がどのように変化するかといった情報がDPCデータ（診療報酬請求データ）として整備されています。このデータを活用することで、「抗コリン薬の影響が入院中の生活機能や予後にどう関係しているか」を明らかにすることが可能です。本研究では、抗コリン作用を持つ薬の使用状況を「日本版抗コリン薬リスクスケール（JARS）」という指標で評価し、以下のような入院中・退院後の経過（転帰）との関連を検討します。

入院中に生活機能が低下するか（Hospital-Associated Disability, HAD）

入院期間が延びるかどうか（在院日数：LOS）

入院中に合併症（転倒、せん妄、褥瘡など）が起きるか

退院時に自宅に戻れるか、施設や他院に転院するか

入院中の死亡

これらを明らかにすることで、高齢患者様にとって「どの薬がリスクになるか」をより正確に把握し、将来的により安全で適切な薬物療法を行うことにつなげたいと考えています。

具体的には、2020年4月1日から2024年3月31日までの間、東京都健康長寿医療センターに入院した患者様を対象に、通常診療の中で得られた情報を取得・解析します。本研究は患者様お一人ずつの直接のご同意を頂かずに、このお知らせをもって患者様皆様からのご同意を頂いたものとみなさせていただきます実施いたします。なおこの研究における患者様の費用負担や謝礼などはございません。

研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加をご希望されない場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

3. 研究期間

倫理委員会承認日～西暦 2028 年 12 月 31 日

4. 研究に用いる試料・情報の種類

利用するのは、診療記録（DPC データ・電子カルテ）にすでに保存されている情報です。新たに検査や処置を行うことはありません。収集する情報には、年齢、性別、入退院日、診断名、入退院時の ADL（Barthel Index）、認知症の日常生活自立度、投与された薬の種類などが含まれます。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号 03-3964-1141（内線：2015）

研究責任者：東京都健康長寿医療センター薬剤科 島崎 良知

-----以上